

ラ ジ オ

“When I was young, I'd listen to the radio“

わたしがラジオを意識的に聞き始めたのは、小学6年生の冬でした。すでに家にはテレビがあり、生活の中のメディアの中心はラジオからテレビへと移っていった時代でした。一つの挫折をきっかけに、誰も聞かなくなったラジオ（真空管）を自分の部屋に持ち込み、ラジオを聞き始めました。少し部屋に引きこもった感じでしたが、むしろそこでラジオを通して、自分だけの社会への窓口を持ったような思いでした。

まず聞き始めたのは、ラジオ関西の「歌声は風にのって」「歌のない歌謡曲」でした。明石の家から神戸の教会へと通う途中、須磨にラジオ関西の建物があり、地元の放送局として親近感を覚えていました。

中学になると、夜の放送が中心になります。「ヤングタウン」(MBS)、「ヤングリクエスト」(ABC)、「バチオンと行こう」(OBC)などのファンでした。この頃になると、真空管ラジオから自作のゲルマラジオ、市販のトランジスタラジオへと移っていきました。トランジスタラジオも今の小さなラジオではなく段々と高級化、高性能化していき、ナショナルの「クーガ7」をクリスマスか誕生日に買ってもらいました。アンテナが360°回転するなど、様々な機能がついて電波を最良の状態を受信することが出来る優れものでした。布団の中で夜遅くイヤホンで聞くラジオの世界は、中学生にはちょっと刺激的で、大人の世界を垣間見るような思いがいたしました。



高校生になると、これまでのAMの世界からFMの世界へと徐々に移っていきました。AMの番組ではほとんど曲のさわりだけとか、1分程度で次の話題や曲へと移っていくのに対して、FMでは高音質で全曲聴くことの出来るのは大きな楽しみでした。ラジオの前にマイク録音出来るテープレコーダーを置き、息をひそめて、自分なりのテープライブラリーを作っていたのを思い出します。

受験勉強のときには、旺文社の「大学受験ラジオ講座」で勉強しようとしてしました。ブラームス作曲「大学祝典序曲」のテーマ曲が流れると、妙に気が引き締まる思いがしましたが、眠気の方が勝っていたようです。毎月テキストを買って、予約録音したテープばかりがたまっていたのを覚えています。欲張ってハリス先生の「百万人の英会話」にも手を出しました。

この頃は、夜眠いので、夜は早く寝て朝3時頃に起きて、勉強をする（ラジオを聞く）生活になっていました。ラジオ番組も「オールナイトニッポン」「走れ歌謡曲」へと移っていきました。「オールナイトニッポン」ではフォークやポップスを、「走れ歌謡曲」では演歌・歌謡曲を勉強していました。

5時、「走れ歌謡曲」が終わると宗教の時間です。「暗いと不平を言うよりも、すすんであかりをつけましょう。カトリック教会がお送りする『心のともしび』』というフレーズで始ま

る「心のともしび」(カトリック)、「ルーテルアワー 心に光を」(プロテスタント)、「心のいこい」(念法真教)などを聞いていました。神学部受験を前にして、自分がキリスト教の世界、宗教の世界の中で生きていくのだということを自覚したり、そのことについて深く考えたり、聖書について学ぶ時間でもありました。



6時からFMで聞くことが出来た「朝のバロック」も新鮮な刺激で、バロック音楽・キリスト教音楽への入り口ともなった番組です。(いったいいつ勉強していたのでしょうか?)

大学になると生活時間帯も変わってきます。午前中家にいることもあり、「ありがとう、浜村淳です」など朝からお昼にかけてのバラエティー番組なども生活の中に入ってきました。まだウォークマンもない時代は、小さなラジオをイヤホンで聞きながら通学することもありました。

ラジオから離れるのは、やはり結婚して、福井に行って馴染みの関西の番組が聞けなくなってしまったのが一つのきっかけです。カーラジオをつけて神戸から福井へ移動すると、米原あたりで受信できなくなってしまいます。違う文化圏に入っていきような気持ち、関西から離れるという思いを噛みしめる瞬間でもありました。

その後ドイツに行き日本のラジオとは決定的に離れるかということそうではなく、今度は短波ラジオでNHKを聞くのが、生活の中での唯一の楽しみでした。日に3回ほど20分ほどの放送を聞くことが出来ました。そのうち、定期的に聞くことが出来たのは、朝7時(ドイツ時間)の放送です。その頃はインターネットもそれほど普及しておらず、また衛星放送をつける余裕もなく、ラジオだけが日本に関する情報源でした。

1995年1月17日、朝起きて、いつものように朝7時(日本時間午後3時)のNHKニュースで地震についての報道を聞いたときの衝撃は忘れられません。自分が10時間遅れの世界にいることの歯痒さを感じました。

その後は、徐々にインターネットの普及のために情報源としてラジオを使うことはなくなりました。携帯ラジオも、ウォークマンからiPodに変わり、Podcastで得られる世界中の情報は限りなく広がっています。

今は、Podcastで落語、ドイツ福音主義教会の放送、テゼの祈りなどを楽しんでいます。

昔、授業中に服の袖にイヤホンのコードを通してラジオを聞いたのも、最近では携帯でワンセグを授業中に見る時代へとなくなっていきました。この先どんどんとメディアは変わっていくでしょう。真空管ラジオから比べると40年ほどで大きく変化、発展してきました。想像もしない世界へと進んでいくことでしょう。

でも、ひょっとするとわたしはまたラジオへと帰って行くのかもしれない。

(中道基夫)